

あわくら
歴史街道鳥取藩主の参勤交代
と志戸坂峠

大昔の志戸坂峠は、ケモノを求めて通ったケモノ道であったと伝えられていますが、今から912年前の承徳2（1098）年、平時範が因幡守に任命されて、この峠越えの記録には鹿跡御坂と呼んでいるが、時範はこの峠を馬で越えています。江戸時代は、智頭往来の中の志戸坂峠として、陰陽連絡の重要な役割を果たしてきています。

鳥取藩主は、上方往来として参勤交代の都度この峠越えをされています。参勤交代は1年おきに江戸詰めとなり、この頃上方へ出府の際の行列は、藩主以下家老、物頭、藩士、それに先触れの道中奉行、その他料理人、荷担ぎ小者を入れて200人余り（同じ江戸時代でも年代によっては100人前後の時もあった）、政治も生活も1年間を江戸で過ごすので、不自由のない陣容、鳥取出発が3月中旬で4月上旬に江戸着との事だから、片道約20日間の行軍でありました。

鳥取を出発した行列が通った参勤交代の道をたどってみると、城下の智頭街道筋「棒鼻」を出て「叶」（市内）の大曲迄来ると、ここはカギ型の道なので、殿様は駕籠の中で、藩士達は頭を右横に向けて、鳥取城をひと目見ながら通過したといいます。武士は後ろを振り返る事を嫌う習慣があったので、大曲を作ったともいわれています。ここを過ぎて、円通寺の渡りで千代川を渡り、袋河原（河原町）から陸を歩いて渡一木から釜の口（河原町）を通り、用瀬で休憩昼食をした後、智頭の本陣に到着、第一夜を智頭の本陣で明かし翌朝出発、今の国道373号線沿いに正午頃駒帰に着いて本陣で休憩された、その昔駒帰には番所があって、人や物の出入りをチェックする役人が詰めていたり、旅籠、問屋米屋茶屋等があって、上方往来を通る旅人を泊めていたそうです。駒帰村を過ぎると、蛇行する山通の志戸坂峠にさしかかる、現道脇には処々に1m余りの旧街道が残っています。この峠を越えて南下、本村影石の立場で休息（平尾氏差配）されて第二夜は古町（旧大原、現美作市）の本陣又は平福の宿陣、第三夜は姫路、第四夜は神戸の大蔵谷、第五夜は西ノ宮～枚方～伏見に宿泊、後は東海道五十三次を順次上られたとのこと。道中の費用は往還を含めて2千両を要したと伝えられて、現在の4千万円以上に相当するのではと推測されています。鳥取藩のように大名ともなれば大変な出費で、その上江戸在府の経費がいるから藩の財政は火の車であったであろうことが想像されます。

（注、禄高10万石以上を大大名、5万石以上10万石未満を大名、1万石以上5万石未満を小大名といった。）

※ この歴史は、鳥取県民話研究会会長の、峠の今昔（県境編）を参考文献としています。

人の動き

平成22年1月1日現在

- 人口 1,619人(-4)
- 11月中の移動
- 男 753人(+1) 出生 1人 死亡 3人
- 女 866人(-5) 転入 5人 転出 7人
- 世帯数 546戸(+2)

お誕生おめでとう

- 小松 陽葉 ちゃん 1月5日生まれ（引谷）
お父さん 隆人 さん
お母さん 光子 さん
- 青木 心美 ちゃん 1月13日生まれ（別府住宅）
お父さん 満之 さん
お母さん 早織 さん

お悔やみ申し上げます

- 萩原 正雄 さん（大茅）1月6日 83歳
延東 信男 さん（猪之部）1月21日 84歳

善意の窓

（村社会福祉協議会から）

平成21年12月12日～平成22年1月19日

お大事にしてください

- 大茅 井上 磨 様 本人 退院内祝
大茅 萩原 正明 様 本人 退院内祝
坂根 田中ふみ子 様 本人 退院内祝
猪之部 政久かねよ 様 本人 退院内祝
中土居 白岩 芳子 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

- 大茅 金田とみ奈 様 亡夫 容二 様 香典返し
大茅 上山 登 様 亡妻 美代子様 香典返し
塩谷 新田 茂 様 亡母 ひさ子様 香典返し

今月の村税

国民健康保険税（第9期）

納期限：3月1日（月）

◎納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。

口座振替の場合は残高確認をお願いいたします。

お問い合わせ先：西栗倉村役場保健福祉課

たばこは村内で買いましょう